

# クロソイ放流技術開発調査

(抄録)

菊谷尚久・高坂祐樹

## 1. 放流適正種苗開発

### (1) 種苗性向上技術開発

青森県脇野沢村において、囲い網方法による中間育成と従来からの海上網生け簀方法による中間育成を実施し、標識放流による追跡調査を行い種苗性について検討した。

放流は平成8年10月23日に実施し、囲い網群30,850尾(TL9.16cm)、従来群29,030尾(TL9.51cm)の合計59,880尾を脇野沢村牛の首地先に放流した。

放流後の種苗の行動は、追跡調査の結果、体サイズにより異なっており、大型で高肥満度の種苗は速やかに分散移動し、次のサイズは放流地点周辺に滞泳して隠れ家行動を示し、小型で低肥満度の種苗は滞泳するが隠れ家行動をとらないものと考えられた。

囲い網群の種苗は、従来群と比較して小型サイズであっても隠れ家行動を示す傾向にあった。

## 2. 放流環境要因調査

### (1) 追跡調査

アイナメかごによる追跡調査を実施し、中間育成による放流後の移動、分散及び摂餌状況等を把握し種苗性について検討した。

調査期間中両放流群合わせて68尾が再捕された。また、天然魚17尾、平成7年度以前の標識魚24尾が採集された。採集された魚類の胃内容を調査した結果、天然のクロソイ1尾(TL23.5cm)が今回放流群2尾(TL8.5、9.7cm)を捕食していた。

### (2) 市場調査

平成8年度のクロソイ漁獲量は、脇野沢村漁協4.1トン、大戸瀬漁協14.6トン(大戸瀬漁協については混獲率からの推定)であった。

平成2年7月から平成8年6月までの放流群別累積再捕率(実数)は、脇野沢村漁協0.12~5.58%、大戸瀬漁協0.17~2.64%であった。

遊魚実態調査として、釣り人数調査、釣り日誌調査、釣獲試験を実施した。また、放流効果範囲を推定するため大型魚の標識放流を実施した。